大田区自立支援協議会　令和３・４年度　第13回地域生活部会議事録

文責：山根　聖子

（事務局一部修正）

（１）会議の名称	大田区自立支援協議会　令和３・４年度　第13回地域生活部会			
（２）開催日時	令和５年１月24日（火）　10：00〜12：00			
（３）開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター　５階　多目的室			
（４）出席した委員、事務局	伊藤　朋春	山根　聖子	青山　明子	松浦　好美
	大場　貴弘	小野　英次郎	金子　正	柴田　静
	宮嶋　祐紀子	相澤　あゆみ	小松代　菜央	新田　美和
	橋本　朋子	平井　有希子		
	区事務局：土岐、西澤、親跡、木村、藤崎			
（５）内容・要旨	１　議題 （１）事務連絡 ・資料確認 ・前回回収分ご意見カードについて （２）地域課題の検討 １）「その人自身の理解」に向けた方法のまとめ ◎本人・家族・支援者が日常に溶け込む活動（防災訓練や地域清掃に参加、挨拶励行等）を継続する。 →将来、理解者や支援者が増えていく。 ◎本人及び家族によるアウトプットのまとめ ・神戸市「障がい啓発ポスター」の取り組みは、障がい特性の理解、情報のアウトプットの好事例なので報告書に追加してはどうか。 ・地域の学校活動に参加することで障がいについて知ってもらうきっかけになる。更に障がいのある人が身近な存在となって日常に溶け込めるようになるといいと思う。 ・避難行動要支援者名簿を受け取っても町会としてどう活用していいかわからいという事例が過去にあった。 →アウトプットした情報を具体的に活用する方法まで丁寧に示していく必要。 ・行動として日常に溶け込むためには、実際に時間をかけ一緒に過ごすことが重要。相互理解を深める。 →イベント、お祭りは有効。それをきっかけに障がいに対する地域の理解が進む。 ・自立支援協議会に学生が参加することは将来に向けていいことだと思う。 ・何かを仕掛ける時は、支援者と親の双方にメリットがないとうまくいかない。自立支援協議会に学生や一般の人の意見を取り入れていくと面白いのではないか。 ・電車の中の障がい啓発ポスターは重要な取り組みだと思う。神戸市営地下鉄の車内には４種類の障がい啓発ポスターがあり、実際に見ている人が多かった。 ・日常に溶け込むためにはポスターや映像という発案に加え、今行なっている地道、身近な活動を継続していくことが大事だと思う。 ・広い意味での障がい理解から個々の障がい理解の間に、人それぞれ個人差があるという情報のアウトプットを挟む。 →段階的に取り組むことにより情報を受けとる側もインプットしやすくなる。 ・個人にフォーカスした時、情報のアウトプットは文字を列挙するよりもイラストを使用したほうがわかりやすい。 →カードの表面にイラスト、裏面に説明文（介助方法、医療的なケアの情			

	報）など、わかりやすい情報発信をする。専門性がない人も無理のない範囲でできること、必要な支援につなぐことができるようにするためには情報のわかりやすさは重要。 ・保護者から通学途中、駅のホームで起きたトラブル（高校生の集団に心ない言葉を投げかけられ親子で怖い経験をした）について相談があった。情報提供として保護者に神戸市の障がい啓発ポスターの取り組みについて伝えた。障がい理解を進めようとしている人たちが集まる自立支援協議会の役割について説明をした。 ・特別支援学校が沿線にある東急電鉄は大田区と連携して障がい児者の理解啓発を進めてほしいと実感した。 ・知る・考えるきっかけとして、ＳＮＳなどを活用しながら、皆が知っているキャッチーな内容でイラストを用いるなど工夫した車内広告を実現したい。 ・本庁舎の待ち合いのモニターテレビに情報を流すのもいいと思う。 ・公共交通機関の車内広告は自然と目にするものなのでいいと思う。 →京急電鉄、東急電鉄のバスを利用して通学通所している人が多いので協力を依頼する。 ・行動のアウトプットの案 →モデルとなる学校を想定しカリキュラムなど部会で具体的に検討。 ・成人の当事者団体を巻き込む必要があるのではないか。最近の東京都の研修では当事者からのメッセージをたくさん発信している。 →障がい当事者の声を自立支援協議会の中に反映させていく。 ・日常に溶け込むことは保護者から見るとハードルが高い。車内広告はいいと思う。 ・病院で行動や大きくなってしまうことがあった時、医療従事者は理解を示していたが、待合室にいる人の多くは恐怖を感じているように見えた。 →病院の待合室にも障がい啓発ポスターが貼ってあると障がい理解につながる。本人や家族の心の負担が減るのではないか。 ・特別支援学校に通っていた時、身体の特徴を高校生に笑われたことがあった。このような行動がなくなるために何をすればいいか、術がわからない。 ・中高校生の集団から車椅子に向かって物をなげられたことがあった。理解啓発が進み、以前よりこのような行為は減っているがゼロにすることは難しい。 →地道な活動が大事。 ・以前、小学生に理解啓発ポスターを作ってもらう意見があった。マイナスの面だけでなく得意なこと、できることなどプラスの面にも目を向けてもらうようにしたい。 →小学生が大きくなった時に地域の目が変わってくるのではないか。 ・本人や家族といった個々の行動だけでは難しいこともあるので、自立支援協議会などネットワークでバックアップしてもらえるとありがたい。個々の課題を地域の課題として捉えることも可能になるのではないか。 ・神戸市の障がい啓発ポスターの先駆的な例があるので自立支援協議会の活動を通じて大田区でも実現したい。 ・知的障がいのある人の母親が子育ての経験を４コマ漫画にしている冊子がある。 →親目線に地域の人の目線を加えるなどして共同学習の参考にしてはどうか。 ２）地域生活部会のまとめ ◎「その人自身の理解」に向けた方法のまとめの確認 ◎まとめに追加 ・自立支援協議会に学生が参加する

・神戸市障がい啓発ポスターに関すること
・アウトプットする側とインプットする側の双方による理解が乏しい現状に対する問題提起
・人それぞれ障がいに対する価値観や理解の違いがあること
・当事者主体の視点が基本であること
◎後期の成人期・高齢期の共通課題「障がい特性の理解」について補足や追加の意見、感想をまとめ報告書を作成する。
◎全体のキーワードは理解啓発。
・教育　大田区教育委員会にも協力を依頼。
・地域　民生委員や自治会で障がいについて知る機会を作る。
・公共　警察
→利用者の身柄について警察と関わることも多い。
→「地域の中にこのような特性を持った人がいる」という情報を共有し連携する。
→警察でも理解啓発の学びの場があるといいと思う。
→ヘルプカードの活用。
・公共　ホームページ
→大田区のホームページ内の自立支援協議会のページを活用し情報発信をする。
・公共　学びの場
→児童館や地域のカフェなどで地域の人と対話する場を提供する。
・公共　ポスター、医師会・交通機関との連携
→車内広告やラッピングバスによる理解啓発活動、身近なかかりつけ医との関係づくりなどの実現に向け連携していく。
・その他　支援者側の質の向上（表現変更予定）
→理解啓発をアウトプットする側（支援者等）は、日頃から手本になるように心がけることが日常に溶け込む上で必要。
・その他　ガイドヘルパー
→大田区福祉人材育成・交流センターの活用や民間事業所の人材育成研修等と連携する。
・その他
→人権の重さを理解する（人権の視点による理解啓発）。人と関わる上で基本になる考え方。「すみません」から「ありがとう」の関係づくり。
◎２年間の地域生活部会のまとめの確認
幼少期・学齢期と成人期・高齢期の二つの視点の共通する課題。
・理解啓発をキーワードに価値観の個人差はあるが日常に溶け込むために何ができるのかを検討した。
・肌で感じる身近な課題をおおた障がい施策推進プラン等の施策に結びついていけばいいのではないか。

２　その他
・地域生活部会委員名簿の確認

次回
令和５年２月７日（火）専門部会（最終まとめ）

以上